

安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会委員からの意見聴取

1. 市としての重点テーマについて小委員会を開催

日程・テーマ	概要
<p>1月20日(月) 多文化共生について</p>	<p>1. 市の取組の現状等について説明 (説明概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人からの相談に対応できるように相談員・通訳員を置いている。</li> <li>・ 市民に対して多文化共生の啓発を行い、外国人と身近に交流する機会を作り、翻訳機等を使ったコミュニケーションの体験を行っている。</li> <li>・ 外国人実習生を雇用している企業等のニーズを聴きとり、新たに設置する多文化共生推進拠点施設での取組に活かそうと検討を進めている。</li> </ul> <p>2. 委員からの意見等 (外国人実習生を雇用するときの課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人実習生を受け入れるとき、日本語の習得、移動手段の確保は、業種を問わず共通の課題である。</li> <li>・ 近年の外国人実習生の傾向として、これまでより個人のプライバシーを重視する必要がある、ある程度の個人的な空間を確保する必要がある。</li> <li>・ 外国人実習生が生活する地域の住民の理解があることが重要である。地域の中でお互いにコミュニケーションが取れるようにする必要がある。</li> <li>・ 外国人が病院にかかるときに、現在では多文化共生推進員や相談員のボランティアによる対応になっており、緊急の対応などは難しい状況である。安心して病院にかかることができる体制を整える必要がある。</li> </ul> <p>(多文化共生を進め、定着させるための提案など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の中に、外国人と気軽にコミュニケーションが取れる場所があれば良いのではないか。</li> <li>・ 外国人実習生にできるだけ長く働いてもらいたいという企業のニーズはあるが、選んでもらえる勤務先であるためには職場での良質なコミュニケーションがあることが必要ではないか。</li> <li>・ 外国人が活躍できる場(母国語の勉強会、母国料理の料理教室など)を設定してはどうか。</li> <li>・ 学校の子どもたちの中にも外国人が増えてきて、親の立場からすると彼らと良いコミュニケーションが取れるようにし、学校が異文化に触れる機会になってもらいたい。</li> </ul>
<p>2月4日(火) 循環型社会について</p>	<p>1. 市の取組の現状等について説明 (資源リサイクル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源ごみのリサイクルによる環境負荷の低減を進めている。</li> <li>・ 紙おむつの乾燥化でごみ処理量の減量ができないか、研究中である。</li> <li>・ ごみのリサイクルや減量化について、小学校での出前講座、イベントでの啓発を行っている。</li> </ul>

(農業)

- ・ 家畜糞尿や野菜収穫後の残渣をたい肥化し、農産物栽培に利用している。
- ・ 農業を継続することで、地域の維持、地域資源の保持に寄与している。
- ・ 農業経営を継続することができるように、担い手の維持、確保の支援をしている。

(林業)

- ・ 里山林整備事業を推進し、地域の人の手が里山に入りやすくなるようにしている。

## 2. 委員からの意見等

(林業における資源循環)

- ・ 一般の市民が、なかなか森林を利用しようとしにくい理由の1つは、木が育ちすぎて素人には手がだしにくくなっているため。一般の市民にも気軽に山に入ってもらえるような「扱いやすい山」にする必要がある。
- ・ 一般の市民に森林の利用を推進するときには、薪ボイラや薪ストーブの利用を促すのが良いのではないか。利用される量は少ないが、山に親しみを持ってもらい、山に手を入れるという機運を作る意味は大きい。
- ・ 市内で手に入るしいたけの原木は、安芸高田市内のものではなく、実は大半が庄原産。市内の山には当然原木があり、利用の検討はできないか。
- ・ 農業ハウスのボイラの燃料は大半が重油で、薪で焚くことも可能だが長時間焚き続けるためには夜間の薪の補給が必要。薪を夜間でも自動投入できるなど技術的な解決ができれば、広く導入できるのではないか。

(農業における資源循環・持続可能性)

- ・ 資源循環ということで農業を見れば、たい肥の利用を進めることが挙げられるが、資源循環を進める目的が農業を持続可能にすることと考えれば、経営が成り立つ農業をするということも重要ではないか。
- ・ 農業を持続可能にするためには、農地を守る、農業施設を維持するということが必要で、農地を預ける側にも農業者に協力するという意識がなくては難しい。
- ・ 農業の経営を支援する方法として、現状では専業農家に対するものが中心だが、市内の農業者の大半は兼業農家であり、農業を持続可能にするためには補助のあり方も見直す必要があるのではないか。
- ・ 農業の持続可能性を考えると、次の世代にどうやって承継するかということは、専業・兼業に関わらず大きな課題である。
- ・ 農業のノウハウをデータ化し、蓄積していくことは、農業の持続可能性のためには非常に重要である。
- ・ 農産品の付加価値を上げるため、JA 広島北部では3R ブランドの推奨をしている。(3R ブランド: Reuse, Recycle, Repeat 例えば、地元で作られるたい肥を利用して米をつくり、その米で鶏を育てる)
- ・ 海外では農産品の品質管理を地域の自治体が行って、野菜の付加価値を上げている事例がある。例えば、市の道の駅で売られる野菜は、市とJAと農業団体がその品質や安全性を保障するようなことをやっても良いのではないか。

	<p>(暮らしの中での資源循環)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境にできるだけインパクトを与えない暮らしを実践し、それを SNS 等で発信していると、世の中には同じ思いを持つ人が多くいることを実感している。その暮らしをすることにあこがれて移住を決める人もいる。</li> <li>・ 暮らしに必要なものを「購入」すれば市外に富が流出してしまうが、必要なものを「自分で作る」ならば富は市内で循環する。</li> </ul>
<p>2月4日 福祉分野の Society5.0 について</p>	<p>1. 市の取組の現状等について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光ネットワーク回線とお太助フォンを利用した健康管理ツールについて将来の可能性を探っている旨説明。</li> </ul> <p>2. 委員からの意見等 (医療現場における課題について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療現場の人材確保は大きな課題で、地元の子どもたちに医療に興味を持ってもらうため、高校生の職場体験の受入を積極的に行っている。</li> <li>・ 近隣市町では、将来の医療従事者向けに奨学金制度を作っているところがある。</li> <li>・ 吉田総合病院と地域の診療所が協力して、24時間の救急体制を取っているが、特に診療所の医師の高齢化に伴い、体制を維持することが難しくなってきた。</li> <li>・ 医療レベルを保つためには、医療機器などの施設を定期的に更新していかなければならないが、費用が多額である。</li> <li>・ 介護士や看護師の資格を持っていて、今は働いていない人たちの掘り起こしはできないか。</li> </ul> <p>(課題解決に向けたアイデア等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安芸高田市内で子どもを産める場所がなくなったことは大きな課題だが、産院はなくても安心できるという仕組みを構築してもらいたい。</li> <li>・ 子育てをするときの相談ごとの一次対応に、ICT が活用できないか。(例えば深夜に子どもが熱を出したとき、症状を入力してどのような対応が考えられるかを教えてもらえるようなものなど)</li> <li>・ 福祉の課題だけに限らず、スマートフォンに入れるアプリを開発することで解決できる課題は多いのではないか。</li> <li>・ 地域の住民を健康にすればするほど、地域の医師に利益が還元されるような仕組みが検討できないか。</li> </ul>

## 2. 総合戦略に掲げる具体のテーマ・取組に対する意見集約

総合戦略に掲げる具体のテーマ・取組の素案を各委員に送付し、メールで意見等を募った。

数多くの意見をいただき、総合戦略自体の必要な見直しを行った。

(いただいた意見の整理結果)

- ・ 総合戦略に新しい項目をつくる必要があるもの 1件
- ・ 総合戦略の書きぶりの見直しを検討する必要があるもの 24件
- ・ 事業実施の際の参考にするもの 113件
- ・ 既に実施済み又は実施予定のもの 6件
- ・ 単に施策に対する質問と思われるもの 1件
- ・ 将来の検討課題とするもの 12件

以上